

- 問1 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は官吏や貴族が守るべき規範として「十七条の憲法」を制定しました。この中で、「和を貴しとなす」という言葉に代表される社会の秩序や礼儀を説いた、中国の孔子を始祖とする思想は何ですか。（2018年 滋賀公立入試 類似）
1. 儒教
 2. 仏教
 3. 道教
 4. 神道
- 問2 7世紀後半、大和政権が唐や新羅からの侵攻に備えて、主に東国から徴兵した兵士を九州北部の警備にあてた制度を何と呼びますか。（2025年 奈良公立入試 類似）
1. 防人
 2. 健児
 3. 衛士
 4. 足軽
- 問3 7世紀後半から8世紀初頭にかけて、日本が律令国家としての仕組みを整えていく過程で起きた出来事として、正しい記述はどれですか。（2025年 栃木公立入試 類似）
1. 中国の都の仕組みを取り入れ、大規模な官庁街を備えた日本初の本格的な都が造営された。
 2. 地方の武士を統制し土地の管理を行うため、全国の国ごとに守護や地頭が設置された。
 3. 大陸の政治混乱を受けて遣唐使の派遣を停止し、日本独自の国風文化が発展し始めた。
 4. 女王が中国の王朝に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号と金印を授けられた。
- 問4 天智天皇の時代、香川県の屋島などの各地に防衛拠点となる山城（朝鮮式山城）が築かれるとともに、全国規模の戸籍が作成されました。これらの政策が共通して目的としていた当時の背景として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 香川公立入試 類似）
1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したため、国内の防衛体制と動員能力を強化しようとした。
 2. 和同開帳などの貨幣を全国に流通させるため、人々の経済活動を正確に把握しようとした。
 3. 平城京への遷都を円滑に進めるため、各地の有力な豪族を地方官として再編しようとした。
 4. 大宝律令を完成させるため、仏教の力を利用して国を治める国家鎮護の思想を広めようとした。
- 問5 飛鳥文化を象徴する法隆寺に関する記述として、歴史的背景を含めて説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2024年 三重公立入試 類似）
1. 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。
 2. 聖武天皇が国ごとに建立を命じた国分寺の総本山として、国家の保護を受けて発展した。
 3. 奥州藤原氏によって東北地方に建てられ、浄土信仰に基づく金色の建築様式が特徴である。
 4. 最澄が比叡山に開いた天台宗の拠点であり、平安時代以降の仏教の発展に大きく寄与した。
- 問6 645年に始まった大化の改新では、天皇を中心とする新しい国家体制の構築が目指されました。この改革において、遣隋使や遣唐使として中国に渡り、大陸の進んだ政治制度や法律を学んで帰国した留学生や学問僧が任命された、政治の助言を行う重要な役職の名称として正しいものはどれですか。（2024年 東京都公立入試 類似）
1. 国博士
 2. 檢非違使
 3. 執権
 4. 防人
- 問7 律令制度に基づく中央官制において、神事をつかさどる神祇官とともに、政治の最高機関として位置づけられた組織を何といいますか。その下に八省を従え、実務を統括した名称を答えなさい。（2024年 山梨公立入試 類似）
1. 太政官
 2. 摂政
 3. 六波羅探題
 4. 評定衆
- 問8 白村江の戦いでの敗北を受け、九州北部には水城や大野城といった防衛施設が次々と建設されました。これらの施設や海岸線の警備にあたるため、主に東国などの遠方から徴用され、九州へ派遣された兵士を何と呼びますか。（2022年 神奈川県公立入試 類似）
1. 防人
 2. 御家人
 3. 健児
 4. 武士
- 問9 7世紀初めに小野妹子らが使節として中国の隋へ送られた背景として、当時の日本が目指していたことについて述べたものとして最も適切な説明はどれですか。（2018年 鹿児島公立入試 類似）
1. 中国の進んだ制度や文化を学び、国家の仕組みを整えるため
 2. 中国の皇帝から日本の王としての地位を認めてもらうため
 3. 中国の軍事力を背景に、朝鮮半島の新羅を攻撃するため
 4. 中国で流行していた禅宗の教えを、僧に学ばせるため
- 問10 「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗（むね）とせよ」という言葉や、「三宝（仏・法・僧）をあつく敬え」といった条文が記された法令の目的として、最も適切なものはどれですか。（2018年 茨城県公立入試 類似）
1. 身分にとらわれず、才能ある人材を中央政府に登用するため
 2. 争いを避け、役人としての心得や仏教を重んじる精神を説くため
 3. 土地や人民をすべて国家のものとし、地方支配を強化するため
 4. 律令に基づいた裁判の基準を定め、刑罰の不平等をなくするため
- 問11 672年に発生した古代日本最大の内乱である「壬申の乱」は、どのような状況下で起こった出来事ですか。その背景として最も適切な説明を選びなさい。（2019年 香川公立入試 類似）
1. 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐる、天皇の弟と子の間で争いが起きた。
 2. 聖徳太子の死後、蘇我氏が政治の実権を握り、独裁的な政治を行ったことに不満が募った。
 3. 大化の改新を進める中大兄皇子に対して、旧勢力の貴族たちが一斉に反旗を翻した。
 4. 唐と新羅の連合軍に敗れた後、国防体制の整備をめぐる朝廷内が二つの勢力に分かれた。
- 問12 663年の白村江の戦いにおいて、日本が百済の復興を支援したものの唐・新羅の連合軍に敗北した出来事は、その後の日本の国家づくりに大きな影響を与えました。この敗戦を受けた当時の日本の対応として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）
1. 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。
 2. 新羅と対抗するために、それまで対立していた高句麗と軍事同盟を結んで朝鮮半島へ再進出した。
 3. 唐との国交を完全に断絶し、遣唐使の派遣を停止することで海外の争いから距離を置いた。
 4. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子を退位させて、新羅から受け入れた仏教を中心とした政治に切り替えた。
- 問13 大化の改新から始まる律令国家の形成過程において、天智天皇の死後の後継者争いに勝利した天武天皇が、その後の政治で目指したこととして最も適切な説明はどれか。（2018年 岡山公立入試 類似）
1. 仏教の力を借りて、地方の豪族に土地の私有を認めること。
 2. 天皇の権威を強め、法に基づき全国を直接統治する中央集権体制を確立すること。
 3. 遣唐使の派遣を停止し、日本独自の国風文化を広めること。
 4. 武士の協力を得て、朝廷の警備を強化し、新しい幕府を開くこと。
- 問14 聖徳太子が活躍した飛鳥時代初期の文化や制度に関する記述として、正しいものはどれですか。（2026年 奈良公立入試 類似）
1. 世界最古の木造建築群とされる法隆寺が建立され、仏教を中心とする文化が栄えた。
 2. 個人の家柄を重視し、氏姓制度に基づいて特定の氏族が世襲で高い官職を独占した。
 3. 武士の心得を記した成文法が作られ、各地の守護や地頭がこれに従って土地を統治した。
 4. 漢文体による十七条の憲法に加え、律（刑罰）と令（政治規定）が同時に整備された。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 儒教	聖徳太子は、天皇を中心とした中央集権体制を整えるため、役人の心得をまとめた十七条の憲法を制定しました。ここには、中国から伝わった孔子の思想である「儒教」の教えが強く反映されており、上下関係の秩序や礼儀（礼）を重んじることで、豪族たちの対立を防ぎ、国を安定させる狙いがありました。一方で、第二条にある「三宝を敬え」という記述は、仏教を重んじる姿勢を示しています。
問2	答え 1 防人	白村江の戦いでの敗北を受けて整備された防衛体制の一環として、九州の防備を担ったのが「防人」です。主に東国の農民が徴兵され、3年間の任期で九州へと送られました。この防人たちの故郷を思う心情などを詠んだ歌は「防人歌」として万葉集にも数多く収められています。
問3	答え 1 中国の都の仕組みを取り入れ、大規模な官庁街を備えた日本初の本格的な都が造営された。	この時期には、持統天皇らによって藤原京が建設されました。これは中国の都を模範とした日本初の本格的な都です。他の選択肢について、守護・地頭の設置は鎌倉時代、遣唐使の停止は平安時代、親魏倭王の称号は弥生時代の出来事であり、律令国家形成期の事象とは一致しません。
問4	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したため、国内の防衛体制と動員能力を強化しようとした。	中大兄皇子（天智天皇）は、百濟復興のために送った軍が白村江の戦いで大敗したことを受け、唐や新羅による日本侵攻を強く警戒しました。そのため、屋島城などの山城や水城を築いて防衛線を固めると同時に、全国規模の戸籍を作成して兵役や税を課す対象を明確に把握し、非常時に国全体を動員できる体制を整える必要がありました。
問5	答え 1 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。	法隆寺は7世紀初め、聖徳太子（厩戸皇子）の指導のもとで建立され、日本における初期の仏教興隆を象徴する存在です。他の選択肢は、東大寺（奈良時代・聖武天皇）、中尊寺（平安末期・藤原氏）、延暦寺（平安初期・最澄）に関する説明であり、時代背景や建立の主体が異なります。
問6	答え 1 国博士	飛鳥時代の海外交流に関する記録によれば、遣隋使や遣唐使に同行して大陸へ渡った人々の中には、長期間滞在して現地の高度な統治システムを学ぶ者がいました。彼らは帰国後、その知識を高く評価されて「国博士（くにのはかせ）」という役職に就き、大化の改新における律令国家建設に向けた理論的な指導者として活躍しました。
問7	答え 1 太政官	律令国家の統治機構は「二官八省」と呼ばれます。その中核である太政官は、中務省や式部省といった八つの実務機関（八省）を指揮し、国の政務全般を決定する最高行政機関としての役割を果たしました。
問8	答え 1 防人	唐や新羅の侵攻に備えるため、当時の政府は全国から兵士を徴用しましたが、特に九州北部の警備には「防人（さきもり）」が配置されました。彼らの多くは東国の農民から選ばれ、住み慣れた故郷を離れて厳しい任務に就きました。その苦しみや家族への思いを詠んだ歌は『万葉集』に「防人歌」として数多く収められています。
問9	答え 1 中国の進んだ制度や文化を学び、国家の仕組みを整えるため	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定するなど、中央集権的な国家体制の確立を目指していました。遣隋使の派遣は、隋の高度な統治システムや仏教文化を直接吸収し、日本の政治改革に活かすことが大きな目的でした。また、中国の皇帝に対して対等な立場での外交を試みたことも特徴の一つです。
問10	答え 2 争いを避け、役人としての心得や仏教を重んじる精神を説くため	十七条の憲法の第一条には、豪族同士の争いを戒める「和をもって貴しとなす」という言葉が、第二条には仏教への信仰を促す「あつく三宝を敬え」という内容が記されています。これらは、勢力争いを続けていた豪族たちをまとめ上げ、天皇を支える役人としての自覚を持たせることを目的としていました。人材登用を目的とした「冠位十二階」や、土地・人民の公有化を目指した「公地公民」の考え方は区別して理解する必要があります。
問11	答え 1 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐる、天皇の弟と子の間で争いが起きた。	天智天皇の跡継ぎをめぐる、弟の大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が対立したことが原因です。この争いに勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇を中心とした律令国家体制の整備をさらに加速させることになりました。
問12	答え 1 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。	白村江の戦いでの敗北は、日本列島への直接侵攻の危機を招きました。中大兄皇子は防衛の拠点として九州に大宰府を整備し、その守りとして水城や大野城などの城を築きました。また、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移すとともに、全国的な戸籍の作成（庚午年籍）を進めるなど、中央集権的な国家体制の構築を急ぐきっかけとなりました。
問13	答え 2 天皇の権威を強め、法に基づき全国を直接統治する中央集権体制を確立すること。	壬申の乱で勝利した天武天皇は、天皇の力を背景に、法に基づき天皇が全国を直接支配する「中央集権国家」の完成を目指しました。この流れは、その後の持統天皇や、大宝律令の完成へとつながる重要な過程となりました。
問14	答え 1 世界最古の木造建築群とされる法隆寺が建立され、仏教を中心とする文化が栄えた。	聖徳太子は十七条の憲法の制定だけでなく、推古天皇の摂政として仏教を厚く保護しました。その象徴が七世紀初めに建立された法隆寺であり、当時の進んだ建築技術や仏教文化を今に伝えています。太子は、家柄に縛られない人材登用を目指す「冠位十二階」なども定めており、それまでの氏姓制度（家柄重視）による政治からの転換を図りました。律令が本格的に整うのは後の時代になります。